

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2970102915
法人名	有限会社 こくせい
事業所名	こくせい館
所在地	奈良県奈良市法華寺町1416番1 (電話) 0742-33-6514

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成12年3月18日	評価確定日	平成12年4月23日

【情報提供票より】(平成20年2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 1月 21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	9人, 非常勤 6人, 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	550 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月21日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	8名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	67歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人平和会吉田病院、医療法人きのだ会奈良駅前クリニック、医療法人岡谷会おかたに病院、医療法人岡谷会新大宮診療所
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新大宮の駅から少し離れ国道沿いではあるが、裏は田畑がありリビングの窓から外を眺めると季節が感じられ、隣の高校からは学生の声が聞こえてくるような、ゆったりとした雰囲気のあるホームです。入居前の生活についての情報を活かし、個々にできることやしてきた習慣を大切に生活できるように支援しています。職員一人ひとりが、得意な分野を活かし、職員同士の連携もありサービスが提供されています。また、幹部職員が中心となり、ホーム全体の認知症ケアの質の向上に前向きに取り組んでいるホームです。管理者は、入居者や職員、家族と本音で話ができるような信頼関係が築けるよう努力しており、職員も入居者も笑顔の多いホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が始めての外部評価です。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 幹部職員が中心となり、一般の職員の意見を参考に自己評価、改善策をまとめられました。今回の外部評価を受けた上で、具体的な改善に取り組んでいく予定です。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域包括支援センターや自治会代表、第三者委員、家族、理事長の参加があり、6ヶ月に1度の運営推進会議が開催されています。理事長より会議で話し合われた内容から、ホームで話し合う議題を提供され、幹部職員の会議で話し合っサービスに活かしています。
重点項目 ③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、写真入りのホーム便りを郵送したり、面会時に直接コミュニケーションをとり様子を伝えて、意向も聞いています。ホームに意見箱を設置したり、定期的に第三者委員を受け入れ、家族や入居者の意見を聞く機会があります。活動的に過ごしたいなどの生活の希望があり、ホームでのサービスに反映しています。また家族会を兼ねて食事を開き、話しやすい雰囲気の中で意見交換や家族同士の交流も行われています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接する高校の文化祭や自衛隊の行事に参加したり、散歩の時には近隣の住人の方々と挨拶を交わすなどの日々の交流にも努めています。また、自治会に加入しています。自治会の活動はあまりありませんが、理事長が老人会に講演に行き、グループホームや認知症ケアを理解してもらうための活動を行っています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に、理事長と管理職の思いを込めて作られた事業所の理念があります。また、ホームの幹部職員で事業所の理念を基にわかりやすい理念を考えています。	○	現在の運営理念の中に込められている思いを、わかりやすい言葉でサービス理念として、どのように地域の中で暮らし続けていくかということ、幹部職員だけではなく職員皆で話し合われて作り上げてはいかがでしょうか？
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念は、玄関と各ユニットに掲示しています。また、入職時にその内容について説明を行い周知し、会議や日々職員とのコミュニケーションを通じて、理念を基にしたケアを伝えています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する高校の文化祭や自衛隊の行事に参加したり、散歩の時には近隣の住人の方々と挨拶を交わすなどの日々の交流にも努めています。また、自治会に加入しています。自治会の活動はあまりありませんが、理事長が老人会へ講演に行き、グループホームや認知症ケアを理解してもらうための活動を行なってい		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	幹部職員が中心となり、一般の職員の意見を参考に自己評価、改善策をまとめました。今回の外部評価を受けた上で、具体的な改善に取り組んでいく予定です。	○	職員全員が自己評価について理解し、話し合いの中で改善策を検討していくことが望まれます。職員の全員が意見をだしあえる会議の開催から始められることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターや自治会代表、第三者委員、家族、理事長の参加があり、6ヶ月に1度の運営推進会議が開催されています。理事長より会議で話し合われた内容から、ホームで話し合う議題を提供され、幹部職員の会議で話し合ってサービスに活かしています。	○	運営推進会議は、2ヶ月に1度の開催が望まれます。また、ホームからは、理事長だけではなく、管理者や職員も直接サービスの向上に向けての会議に参加されることを期待します。

こくせい館

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催するセミナーに参加し、市の担当者との意見交換の場があります。また、その意見交換を受けて、市の担当者から情報提供があり、サービスの向上につなげていくことができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、預かり金の出納状況の報告や請求書と一緒に写真入のホーム便りを郵送しています。また、面会時には、直接コミュニケーションをとり様子を伝えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに意見箱を設置したり、定期的に第三者委員を受け入れ、家族や入居者の意見を聞く機会があります。活動的に過ごしたいなどの生活の希望があり、ホームでのサービスに反映しています。また家族会を兼ねて食事会を開き、話しやすい雰囲気の中で意見交換や家族同士の交流を行いました。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の心身の状況に気を配り、日々声をかけたり、個々に話しを聞きストレスの軽減に努めています。また、退職者は少なく、馴染みの関係を築けている職員が多いためダメージのないようにケアをしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内がホームに届くと、希望を募ったり内容を見て必要な職員が参加できるように配慮しています。研修報告書を回覧するのみで、ホーム内での研修や勉強会は開けていません。研修報告の回覧後、報告書を本人に返却し、ホームに報告書が残されていません。	○	研修報告書はコピーでもホームに残しておくこと、伝達研修を行うことで参加した研修がホームでのケアに活かされることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム奈良県支部監事職を勤めており、同業者との情報交換の場が多く、困ったこと等を相談し合っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	通っていたデイサービスの連絡帳や自宅の訪問、家族から話を聞くなど、入居前の生活についての情報をできるだけたくさん得て、入居の準備をしています。また、直接見学に来て、雰囲気に馴染んでもらえるよう、一緒に食事をしてもらうこともあります。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者が一緒に家事や生活をする中で、コミュニケーションを大切に、言いたい事が言えるような信頼関係を築いています。笑顔や喜びだけでなく、泣いたり怒ったりすることも大切であると考えて支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、性格や趣味、生活歴を聞いています。コミュニケーションの困難な入居者には、事前に様々な情報や職員や家族の話から本人の意向を検討しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者も一緒にケアを行いながら、職員との情報交換や家族とのコミュニケーションから、その意見を反映した介護計画を立てています。	○	職員の集まる会議を開催し、様々な意見を出し合った上で介護計画が立てられることを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護認定の期間を介護計画の期間としています。また、状態の変化があったときには、その都度見直しを行っています。	○	介護認定の期間は長くて2年であり、入居者の状況も変わっていると考えます。長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月くらいで設定し、少しずつの変化も捉えることができるよう、介護計画の見直し時には再アセスメントを行っていくことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わってかかりつけ医の通院同行したり、入院時の洗濯、市役所の手続きの同行など個別に必要な応じた対応を行っています。また、希望に応じて個別に買い物に行くこともあります。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に個々の状況に合わせたかかりつけ医を決めたり、以前からのかかりつけ医を継続するかを相談しています。また、個々のかかりつけ医と連携をとり、24時間医師と連絡がとれる体制もあります。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合については入居時に家族に説明を行なっています。実際に重度化や終末期を迎えたときには、家族と医師、職員とが話し合いを重ねながら、方針を決めています。特別養護老人ホームに転居を希望したこともあったり、ホームで看取りまで支援したこともあります。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	フロア内で職員同士が入居者のプライバシーに関する話を話さないように指導しています。また、言葉遣いにも気を配っており、乱れた時にはその都度注意しています。個人ファイルは、事務所の鍵付きの書庫に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の大まかなスケジュールはありますが、個々の意思を確認しながら、思い思いに過ごすことができるよう支援しています。職員の人数の足りないときやケアが重なるときには、希望通りに支援できないこともあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に3回は食材の買い物と一緒にいき、毎日の食事の下ごしらえと一緒にしています。また、一緒に食べながら自然にサポートし、楽しく食事できるように支援しています。飲酒も禁止してはおらず、疾患から飲めない入居者にわからないようにし、飲酒できるよう支援しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯が決められていますが、毎日行水の習慣のある入居者には、それができるように支援したり、拒否のある人にも本人の意思で入ってもらえるように声をかける工夫を行っています。	○	決められた曜日や時間帯以外の希望があったときに、希望に合わせて入浴できることや、夜間不眠の方に夕食後の入浴が行える体制をとるなど、ホームで取り組めることはないかを検討することを期待します。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や食事作りなどの家事や、畑や草花の水遣り、編み物などの趣味の場で、役割や楽しみごとを感じながら生活できるように支援しています。婦人会の会長をしていた方には、行事の時の挨拶を任せることで、生き生きとした表情が見られています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、毎日散歩に出かけています。また、ホームの庭やガレージが広く、門の中であれば自由に外に出られ、実際に毎日自由に外に出ている方もいます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの目の前が交通量の多い国道のため危険であり、門の鍵は閉めています。また、1階ユニットも見守りのできる体制でないときに鍵をしています。家族には鍵を閉めていることを説明しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、ホーム独自で避難訓練を行っています。マニュアルがあり職員に周知しています。夜間想定はできていませんが、今後行いたいと考えています。	○	運営推進会議で地域の協力を得られるような働きかけをしたり、夜間想定しての訓練が実現されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の食事指導を受けたことがある職員が、カロリー計算や栄養のバランスなどを考えた上で献立を考えています。また、管理栄養士にも何度かメニューを見てもらったり、体重の変動や血液データからも栄養状態を把握しています。入居者の咀嚼・嚥下能力に合わせ刻み食の提供を行ったり、食事量のチェックを行い、個々の状況を把握しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共有空間があり、お花が生けてあったり、貼り絵があり、季節感のある飾り付けをし、ソファなども家庭的な雰囲気があり、入居者がゆったりと寛ぐことのできるスペースになっています。フロアの臭いにも気を配り、空気清浄機やおむつ交換時汚物を新聞に包むなどの工夫を行っています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅を訪問し、生活の雰囲気や家具の配置などの情報を持ち、使い慣れた家具を持ち込んでもらい、居心地の良い居室づくりを工夫しています。全室和室になっており、家族がいつでも一緒に泊まってもらえるように考えられています。仏壇や鏡台、タンス、写真などでその人らしい居室になっていました。		